

小野谷機工の新商品

純正タイヤ空気圧センサー対応 OGツール・補修用センサー

小野谷機工はこのほど、乗用車用・トラック用の純正タイヤ空気圧センサー（TPMS）に対応した補修用センサーと、TPMSの診断ツールであるOGツールを販売開始した。OGツールを使って純正センサーのIDを補修用センサーにコピーすることで、簡単に交換できるのが特徴。補修用の新たな武器として威力を発揮しそうだ。

（木本）

位置づけ注力している。

同社のTPMSは乗用車用、トラック用があり、乗用車用ではトヨタ自動車のレクサス、クラウン、クラウンマジェスタ、センチュリー、カムリ、ランドクルーザーなど、TPMSが純正装着されている車両が対象。トラック用では三菱ふそうの純正センサーに対応している。

これらの車両について、TPMSを交換する場合に使えるということだ。

解説していただいた

小野谷機工では創立50周年を機に、タイヤサービス機器、環境機器の2本柱に加えて、TPMS事業をプラス事業として

同社監査役の川崎雅彦氏の話では、「取り扱っている車種がこれらの車両に限定されるのはメーカー側がセンサーの情

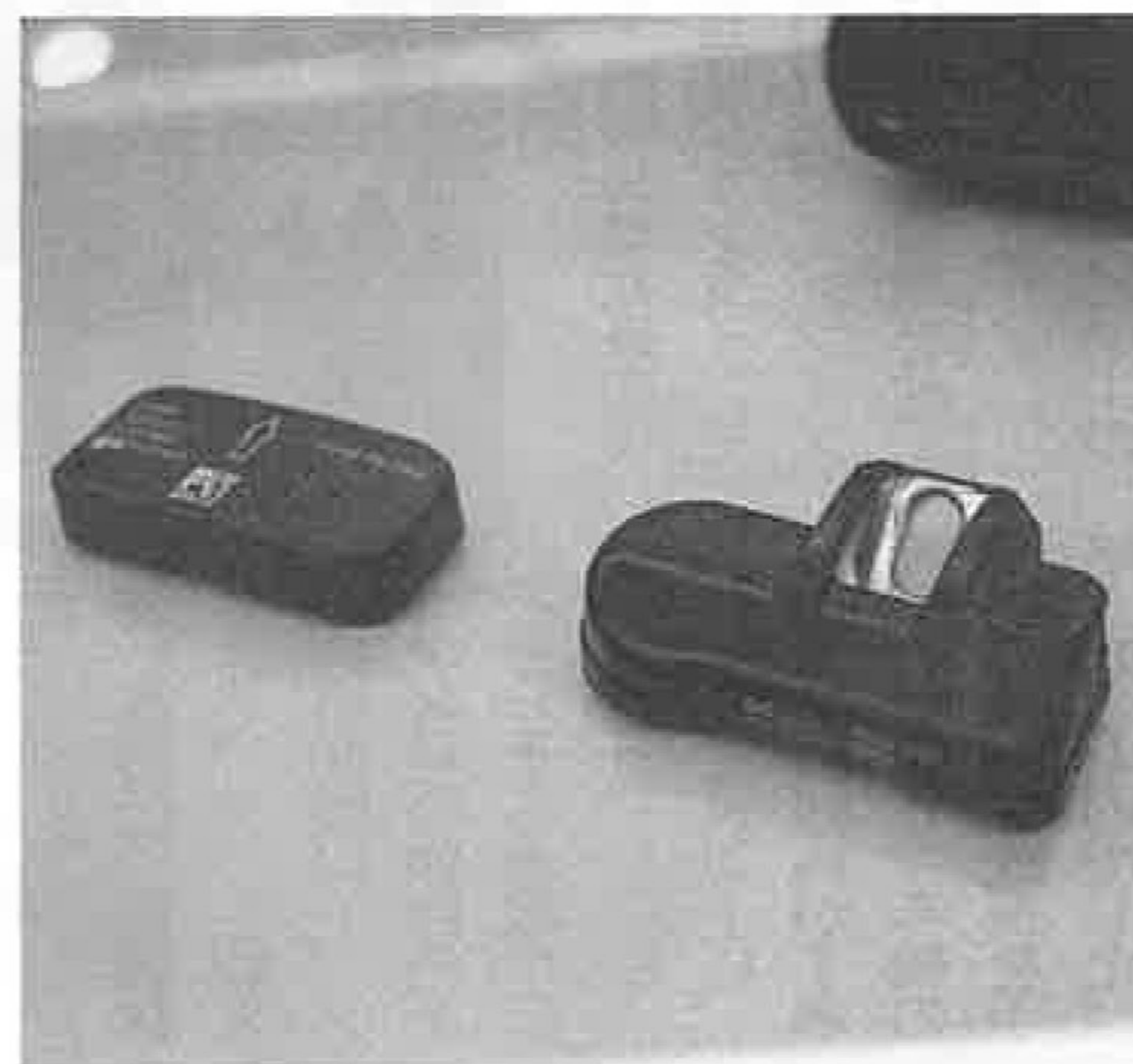
報を開示したからで

す。その情報をもとに我々が補修用センサーを開発したということ。将来TPMSの装着車種が増え、メーカー側がセンサーの情報を開示すれば、我々はそれに応じた補修用センサーを開発します」という。

バッテリー切れや故障により、お客様がTPMSを交換する場合は、通常はカーディーラーで新しい純正センサーを購入し、タイヤショップでセンサーを装着する。

そして再びカーディーラーに向かい、IDのセットアップ（新しく装着した純正センサーを以前のセンサーと同じものとして車両に認識させる作業を行うこと）になる。

これはお客様にとって時間も労力もかかる。しかし、タイヤショップが同社のOGツールと補修用センサーを使えば、お客様はカーディーラーに行く手間が省ける。直接ショッ



三菱ふそうのセンサー、右が純正、左が補修用



液晶画面で操作は簡単

プで補修用センサーを購入し、ショップはその場でOGツールを使って補修用センサーに純正センサーのIDをコピーし付け替え交換するだけ。ワンストップの手間も済むわけだ。

そして、ショップにとっては補修用センサーの販売収入に加え、IDコピー料金、工賃収入が見込める。大きな

作ボタンがある。トラック用には自由に曲げられるアンテナが付いており、これはダブルタイヤの内側やスパーシングタイヤのセンサーを読むのに役立つ。つそうだ。

トラック用から解説していただいた。三菱ふそうの純正センサーはバルブ方式だが、小野谷の補修用センサー

純正センサーをコピー

ショップの新たな収益源に

な効果である。

OGツールは純正センサーのバッテリー状態、タイヤ空気圧、タイヤ内部の温度を読むことができる。そして、補修用センサーに純正センサーのIDをコピーすることができ

る。ただし、使うにはWiFi環境が必要である。

形は昔のガラケーに似ておりやや大ぶりのサイズ。液晶画面と操

はベルト方式。専用の20・22・5のベルトでバルブの位置に合わせて補修用センサーを取り付ける。

ベルトに固定するためホイールデザインを問わず装着可能で、経年劣化によるエア漏れの心配もない。また、タイヤ脱着時に破損するリスクも少ないのが特徴。

バッテリーの耐用年数は約4年と純正セン

サーより1年半から2年も長く、車両モニタリングでのバッテリー残量が純正センサーは3段階の表示しかないのに対し、補修用センサーは%表示での確認ができるため、バッテリーが切れる寸前でも安心だ。

また純正交換の場合、車速25キロ以上で10分間走行すれば新たなセンサーを認識するとされてい

る。しかし実際の走行では演算速度に個体差があり、数分で読み取れない場合もある。OGツールに電源を入れ、液晶画面の「ID Copy」を選択する。次に「Vehicle Selection」(車両の選択)を押し、メーカーでトヨタを選択。次にモデルでカムリ、年式を選択し、「Read Sensor」(センサー読み込み)を選択すると、純正センサーのIDを読み取って表示する(液晶画面のOrigin a lの位置に表示)。続いて補修用センサーのIDを読み取った後、「New」ボタンを押し、補修用センサーをOGツールのそばに置き「ID Copy」を押してコピーを行うと、純正センサーのIDと一致した。純正センサーのクローンが出

上がったわけだ。ID読み取りからコピーまで所要時間は30秒ほど、交換取り付け後のセンサーが故障していないかのチェックも可能。これなら作業者もドライバーも安心である。

同様にトラック用のデモンストレーションも見せてもらったが、操作方法は極めて簡単。ツール下部のキーを使えばIDを手入力することもできるし、「Language」(言語)のボタンで日本語操作も選べるようになっており、TPMS初心者も導入しやすくなるだろう。

今後、TPMS搭載車両が増加するにつれ、OGツールも追加対応が必要となるが、同社のOGツールのプログラムにはAndroidを使用しており、バージョンアップを常に行うことが可能。更新が無料なのも強みだと言えそうだ。

専門ショップとしての技術アピール効果に加え、作業のたびに発生する収入とお客様の利便性を考えると、魅力的なツールだと言えないだろうか。導入費用はOGツールが各20万円。プラス補修用センサー費用。問い合わせは同社本社(0778-2212124)または各営業所まで。



乗用車用「OGツール」